

【New Poetry House 口誌】
Poetry With Noname

奇数月の第二日曜日、定期開催
ひとりひとりの
詩への想いを大切に。



◇ 2012/05/13 (Sun)

母の日に、七人が集まりました。

最も多感といわれる十代☆ 能代から遊びに来てくれた高校生のふたり（高橋奈緒さんのご紹介！）が、自作の詩を紹介してくれました。詩の背景や、日ごろの詩に対する想い。作者のナマの言葉に頷き、詩は人そのものだなあ、などと今更ながら思うのでした。

私小説のようにセキララである必要はないんだろうけど。例えば超ファンタジーを書いている。その中に込められたメッセージがあるように。詩には、間違ひなく自分というものが、スックと或いはヒソカに立っている。どこに立っているかわからないような詩じゃ、ダメなんでしょうな。

この日も沢山の良い詩が紹介されました！ 世の中には優れた詩がいくつもあり、つくづく私は何も知らない

なあ、と情けなく感じつつ。いやいやだからこそ、こんな風に誰かにおしえて貰えるこのチャンスを大切にしよう☆ と発想を転換。
いつもステキな詩を紹介してくれる木村さんの、またまたステキな持ち寄り詩をおすすめ分けます。

「外は 夕暮れ」

作者？

また呑むの？
あんまり呑めば
おっかあに 怒られるよ。
二歳のかなが、
ビールをコップに注ぐのを見ていて
おっとうに言う。
たまに出るおっかあのおマネをして……

そのかなが
今日は おっとうのコップに
しゃくをしてくれるという。

牛乳やお水のように
こぼしてしまわないか
ハラハラする気持ち 嬉しい気持ち
一杯 コップに注いでもらう。

注ぎ終り 自分の位置へ 戻ろうとしているかなに
お礼を言う
微笑し 首をすくめる。

一口呑む。
おいしい。

かなよかったね。
にさんが 声をかける。
おっとうさん おいしいって、
おかあさんも かなに言う。

また かなが はにかむ。

—— 夕暮れ

ほろ苦いものが
こぼれ、沁み通っていく



なんでもないような、ちょっとした幸せの瞬間。外は夕暮れ、きつと蜜柑色のあつたかい夕焼けに違いない。けれどそんなことはちっとも書かれていない。描写されているのは屋根の下、家族の時間。

飾らない語り口の、作者は故あさめゆみさんです。秋田で長く詩に親しんで居られる方々は皆さんご存じの詩人さんです。北の詩手紙準備号に追悼詩として収められた詩を、私も拝見したことがあります。

「ほろ苦いものが／こぼれ、沁み通っていく」と結ばれたこの詩。幸せと等分の、父としての想いなのでしょうか。男親の皆さんはいかがですか？ いつか私の育った家も、こんな夕暮れの中にあつたのかな…。ほっこりするばかりでなく、思つものがありますね。

みんなの持ち寄り詩を存分に味わってから、残り僅か

な時間で「かたつむり」の「ゆめ」をキーワードに、四行詩を書いてみるワークショップを。詩のことはを出てやすくする練習☆ もっと遊びたかった！

七人で鑑賞した詩のタイトルは……

- ・ 冬のおひさま
- ・ 百合を描く
- ・ 宝物
- ・ * 読者がタイトルを思い浮かべる
- ・ イ 「忘れた秋／冒頭より」
- ・ 外は 夕暮れ
- ・ いま

◇ 2012/07/08 (Sun)

なんと！ ついに？ 参加者三名での開催。

三名とどうのはつまり、「アメンバー」(俗にいう言い出しっぺ、主催側)だけ。なんだか少し照れくさい……。

思えばこの「名も無き詩の鑑賞会」を初めて開催した二〇一〇年三月十四日。「三人だけでもいいから、やってみよう！」の心持ちだった。幸せなことに、いつも誰かが遊びに来てくれて、実際に三人だけで机を囲んだのはこの日が初めて！ あの日から二年を越え、こちら辺で初心に還る機会かな？

おそろくは、それぞれ何を感じるものがありつつ。なんとなく、静かに読書タイム。お馴染みの開催場所とな

っている文学資料館さんにもたくさんの蔵書があり、それを拝借して。あるいは持ち込んでいた本を交換したりして。読書して、充電！

◇ 2012/09/09 (Sun)

野外リーディング：千秋公園、いつもの一室に貼り紙を残して外へ飛び出してみる企画！ 天気予報はちよつと微妙：雨が降りませんように、と祈る気持ちで車に乗り込んだ六名。願いは通じました☆



腰を落ち着けた一角は、なんとモステキな木陰。園内でお散歩を楽しむ人たちのコースからほんの少しそれ、緑の中でのんびりと、楽しい時間を過ごすことが出来ました♪

ヤアヤア盛り上がっていると。一人の男性が、いったいあの一回は何をしているのだ？ と近付いて来ました。おっかなびっくり「詩の集まりです」と答えると「少し聴いていてもいいかな？」え〜！ ほんとですか！ 予想外☆

日ごろ詩を書く書かないにかかわらず。私たちみたいなスタイルばかりじゃなく。好きな人はいるんだな、という実感。しばらく立ち止まり、感想までお話しして下さいました。なんだか妙に嬉しくて。

野外効果は想像以上♪ 参加者全員なんだか元気倍増したようで、どの詩にもたくさんの声、声、声。大きな声で、めいめいの想いを伝え合うことが出来ました。超濃厚な空間だったのでは。クセになりそう…。来年のよい季節に、きつとまた♪

六人で鑑賞した詩のタイトルは…

- ・ノック
- ・怠惰な僕は
- ・勧誘、はじめます
- ・* 呉服店のポスターより(タイトル無)
- ・タコの優しさ
- ・白い海
- ・待合室
- ・T.S.U
- ・合唱コンクール